

令和6年度外部評価会 集計表(農業者用)

所属名: 熊毛支庁屋久島事務所農林普及課

課題名①屋久島を支える担い手の育成 ~果樹新規就農者のサポート体制策定						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの意見・提言	意見・提言等に対する改善策や普及指導計画への反映等
		適当	概ね適当	要改善		
課題の設定	①農業者や地域が必要とする課題であるか	5			○農業者自体が屋久島の現状を知ることが重要。現状をよく調査され実態がよく理解しやすく一見して把握できた。 ○次世代をどう育てていくか大変重要な課題である。 ○10~20年後も屋久島のぽんかん・たんかんが産地として存続しているよう願っている。	令和7年度も引き続き果樹若手農家の育成を重点計画取り上げ、計画的な活動を進める。また、担い手育成は積み上げが大事なので、継続して行う。
対象の選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	5			○これから屋久島の農業に必要な方々であり、個々の環境に即した声かけ・指導の継続が必要。 ○新規就農者が今後も何人も出てくる。	令和7年度も引き続き果樹若手農家の育成を重点計画取り上げ、計画的な活動を進める。今後はJAや町、指導農業士など関係者一丸となって、サポートを拡充する。
活動体制・活動方法	③関係機関とうまく連携して活動しているか	4	1		○県、町、JA等と相談しながら就農者への指導の工夫がなされている。個々の農家の形態、経営目的が異なる中、より良い研修になるよう工夫している。就農者の経験不足の中研修内容の理解の難しさがある。	令和7年度も引き続き果樹若手農家の育成を重点計画取り上げ、計画的な活動を進める。また、今後の課題として、定量・定質な研修となるよう取り組んでいく。
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	4	1		○収量・収入に影響があるという剪定技術の確実な習得が重要とのことですので、数年かけて繰り返しの指導をお願いしたい。	
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	3	2			
活動の成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	4	1		○行動を起こすことが大切な中農家との連携を通じ、一戸の農家でも多く参加を募り活動している。 今後も農家への声かけを大切にして欲しい。 ○地道な活動は評価できる。	令和7年度も引き続き果樹若手農家の育成を重点計画取り上げ、計画的な活動を進める。また、担い手育成は長期に渡るので、粘り強く継続していく。
活動の波及性と改善	⑦他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	2	3		○農園・農家の見回り、情報交換に力を入れてタテヨコのつながりを作れる環境づくりを今後も工夫されて欲しい。よく考えられている。 ○新規就農者が果樹に集中している現状から果樹生産サポートを重視する必要があるが、将来的には果樹以外も視野に入れる必要があるようを感じる。	令和7年度も引き続き果樹若手農家の育成を重点計画取り上げ、計画的な活動を進める。現段階では、果樹の新規就農者のニーズに対応した研修プログラムとしているが、今後、果樹以外の新規就農者にも波及できるよう体制構築を進める。
	⑧結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	4	1		○新規就農者がお互い仲間意識を持って、産地育成の一員であると自覚できる体制作りが望まれる。	

令和6年度外部評価会 集計表(関係者用)

所属名: 熊毛支庁屋久島事務所農林普及課

課題名① 屋久島を支える担い手の育成 ~果樹新規就農者のサポート体制策定						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの意見・提言	意見・提言等に対する改善策や普及指導計画への反映等
		適当	概ね適当	要改善		
課題の設定	①課題は地域の農業振興上、重要な課題であるか	2			新規就農者のサポート体制の確立はとても重要なことなので、課題としては適切である。	令和7年度も引き続き果樹若手農家の育成を重点計画取り上げ、計画的な活動を進める。また、今後のサポート体制には関係者の協力が必要なので、引き続き緊密な連携を行う。
対象の選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	2				
活動体制・活動方法	③関係機関と連携して活動しているか	1	1		町の試験園もトレーニングファームとして活用し、実戦形式の研修の場として利用できないか。	令和6年度は新規就農者研修会において、定植の実践研修をトレーニングファームで実施した。令和7年度も振興会研修や新規就農者研修会での活用を計画している。
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	1	1			
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	1	1			
活動の成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	1	1		研修プログラムのマニュアル化は、重要である。内容を検証し、より良い方向へ改善していくことは大事。	令和7年度も引き続き果樹若手農家の育成を重点計画取り上げ、計画的な活動を進める。その中で令和6年度の反省を踏まえながら内容の改善を行っていきたい。
	⑦指導対象が積極的に課題解決にあたるようになったか	1	1			
活動の波及性と改善	⑧他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	2			次のステップとしてサポート体制構築事業の活用は、大変良いと思う。	令和7年度も引き続き果樹若手農家の育成を重点計画取り上げ、計画的な活動を進める。また、事業導入によって課題の最重点化で関係機関への意識付けも行っていく。
	⑨結果が十分でないものは今後の対策を考えられているか	2				



発表の流れ

1. 普及計画の位置づけ
2. 課題と背景
3. 対象の選定
4. 活動体制と活動方法
5. 活動の成果
6. 残された課題



普及計画の位置づけ

□ 重点活動 3課題

- 1 屋久島を支える担い手の育成（経営体）

2 屋久島を支える担い手の育成（青年・新規）

- (1) プロジェクト活動を通した生産・経営管理技術の向上支援

(2) 新規就農者受入・支援体制の整備

- 3 サツマイモ基腐病等の被害軽減による産地維持

□ 一般活動 5課題

- 1 屋久島を支える担い手の育成（経営体・地域営農）
- 2 屋久島ばれしょの生産安定
- 3 屋久島の特性を生かした果樹産地育成
- 4 環境に優しい茶産地の育成
- 5 屋久島の特性を生かした肉用牛産地づくり



課題と背景

□ 果樹産地衰退の懸念

高齢化, 労力不足, 老木園, 鳥獣被害, 気象災害などが顕著に



□ 果樹新規就農者の増加

後継者, I・Uターン, 非農家など
多種多様な人材の農業参入

次代の担い手育成で諸問題に立ち向かう

対象の選定

- ▶ 新規就農者（H26～R6）26戸（うち果樹新規就農者14戸）
- 就農5年未満（R6～R1）10戸（西脇さん除く）

表. 過去5年間の新規就農者の状況

就農年度	R2	R3	R4	R5	R6	合計	割合
新規就農者数	2	1	2	5	3	13	
年代別							
20代	1				1	2	15%
30代			2	2	2	6	46%
40代	1	1		2		4	31%
50代				1	1	2	9%
部門別							
果樹		1	2	5	2	10	77%
野菜						0	0%
茶						0	0%
畜産	1				1	2	15%
花き	1					1	8%
作物						0	0%



➡ここ5年、屋久島の果樹新規就農者が急増！！

活動方法

- ▶ 現地就農トレーナー研修を基本とした研修プログラム策定

- 6月 カンキツの基礎（生理生態・経営・各種事業など網羅）
摘果講習会
- 10月 指導農業士による園地巡回
果樹ドローン飛行実演
経営カウンセリング（就農計画の進捗状況確認）
- 11月 青年クラブ視察研修（農開センター&出水）
奄美×屋久島たんかん産地間交流（R5・町内）
苗木植え付け実演（R5・町果樹試験園）
- 1月（予定）たんかん園地巡回（新規就農者園）
- 2月（予定）せん定講習会



➡農家の意見も取り入れながら実施

活動体制

果樹新規就農者 11戸

支援・指導

屋久島町 農業委員会

農業委員会

連携

農林普及課

JA種子屋久

園振協屋久島支部 果樹技術部会
屋久島町技連会 農業園芸部会協力・連携
熊毛支庁 農業振興係協力・連携
園振協本部

サポート体制のイメージ

- 就農相談
- ・県、町、JAが連携し、就農希望者の相談
- 研修・育成
- ・トレーニングファームや島内園地で実践形式の研修
- 就農支援
- ・各種補助事業の申請や就農計画、融資計画を作成
- 就農定着
- ・定期的な研修への参加や就農状況報告による現状把握



活動成果②

▶ 経営カウンセリング
個別カウンセリング **8戸**

▶ 研修累計参加者（全8回）

新規就農者 25名
青年農業者 8名
指導農業士 5名
関係機関・その他 56名

累計94名



参加した農家からの声

- ◆ 島外には良い意味でヤバいやつがいることを知りました。刺激になりました。
- ◆ 就農して2年。農業をしてて、現実とギャップを感じることもあります。そんな時に島外研修は刺激になりました。継続してほしい。
- ◆ 農業未経験なので、カンキツの生理がわかるのが面白かった。
- ◆ 奄美のたんかんの植え方や考え方は参考になりました。
- ◆ 果樹経営事業で新植が対象とは知らなかった。

ご清聴ありがとうございました！

